

令和 7 年度 事業の状況

1. 令和 7 年度 教育研究助成事業

定款第 4 条第 1 項第 1 号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目 的

この助成は、岡山県内における医学及び医療福祉学に関する研究を助成し、その振興を図ることにより医療福祉社会の発展に寄与することを目的とする。

(2) 対 象

- ① 医学・医療福祉学の研究であって、申請者が 1 人で行うもの、または、2 人以上の研究者が同一のテーマについて共同で行うもの。
- ② 特色ある研究を発展させるためのもの。
- ③ 40 歳以下の者が行う研究で、将来の発展が期待できる優れた着想をもつもの。

(3) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(4) 申請件数、採択件数、助成額

申請のあった 35 件のうち 18 件を採択した。助成額は総額 5,396,403 円。なお、1 件の研究が未実施のため、対象の助成金 300,000 円は全額返還となるが、会計処理は令和 8 年度となる。

(5) 助成者一覧、成果等

(所属及び職名は申請書提出時点)

①	しらが ゆうじろう 白髪 裕二郎	川崎医科大学附属病院 ME センター 副主任臨床工学技士
	研究題目	CRRT (Continuous Renal Replacement Therapy ; 持続的腎代替療法) における、温度変化を用いた静脈チャンバー鬱滞時間の検証
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	本研究から、血流量の増加に伴い静脈チャンバー鬱滞時間減少すること、脱血圧の低下に伴い静脈チャンバー鬱滞時間が延長することがサーモグラフィーにて温度変化を定量的に評価することで明らかとなった。今後は、返血圧の影響も検討を行っていききたい。そして、CRRT の回路寿命を延長させるための、至適治療条件の決定、および適正な回路内圧管理に繋げていきたい。
②	みやい まさひろ 宮井 将宏	川崎医科大学総合医療センター 中央放射線部 診療放射線技師
	研究題目	18F-FDG-PET 検査における腎機能および飲水方法が画質に与える影響
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	2025 年 11 月 13 日時点において、腎機能正常群 22 例、腎機能低下群 19 例に対して 500cc の飲水を行った。正常群では、膀胱の SUVmax が pre=13.56, post=36.63 で有意差($p<0.01$)が認められたが、他の部位では全ての指標で有意差は認められなかった。低下群では、全ての部位および指標で有意差は認められなかった。これらの結果から、腎機能が正常な場合は FDG 投与前に飲水すると膀胱の集積が低下し、腎機能が低下している場合は飲水のタイミングによって生理的集積は変化しないことが示唆された。なお、現在もデータ収集を継続しており、飲水量が 500cc に加え 250cc についても追加検討を行っている。目標とする症例数に到達し次第、追加の解析を行う予定である。250cc も 500cc の場合と同様の傾向となることが予測される。本研究により、患者の腎機能に応じた適切

な飲水のタイミングと量が判断でき、PET 検査の画質向上が期待される。最終的に研究結果をまとめ、日本核医学技術学会誌に投稿予定である。									
③	<table border="1"> <tr> <td>きたかぜ けいすけ 北風 圭介</td><td>川崎医科大学 薬理学 助教</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>リゾリン脂質メディエーターを標的とした前立腺がんの治療基盤</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>本研究では GDE4 によるリゾリン脂質レベルの変動が PPARα や PPARγ を介して下流因子の発現量を制御することを見出した。本成果は PPARα 優位な状態から PPARγ 有意な状態へとシグナル伝達経路をスイッチングする役割を GDE4 が持つことを示唆し、前立腺がんの発症・進展機構の解明に繋がると期待される。研究成果は第 99 回日本薬理学会年会で発表するとともに、論文を国際学術誌に投稿予定である。</td></tr> </table>	きたかぜ けいすけ 北風 圭介	川崎医科大学 薬理学 助教	研究題目	リゾリン脂質メディエーターを標的とした前立腺がんの治療基盤	助 成 額	300,000 円	成 果 等	本研究では GDE4 によるリゾリン脂質レベルの変動が PPAR α や PPAR γ を介して下流因子の発現量を制御することを見出した。本成果は PPAR α 優位な状態から PPAR γ 有意な状態へとシグナル伝達経路をスイッチングする役割を GDE4 が持つことを示唆し、前立腺がんの発症・進展機構の解明に繋がると期待される。研究成果は第 99 回日本薬理学会年会で発表するとともに、論文を国際学術誌に投稿予定である。
きたかぜ けいすけ 北風 圭介	川崎医科大学 薬理学 助教								
研究題目	リゾリン脂質メディエーターを標的とした前立腺がんの治療基盤								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	本研究では GDE4 によるリゾリン脂質レベルの変動が PPAR α や PPAR γ を介して下流因子の発現量を制御することを見出した。本成果は PPAR α 優位な状態から PPAR γ 有意な状態へとシグナル伝達経路をスイッチングする役割を GDE4 が持つことを示唆し、前立腺がんの発症・進展機構の解明に繋がると期待される。研究成果は第 99 回日本薬理学会年会で発表するとともに、論文を国際学術誌に投稿予定である。								
④	<table border="1"> <tr> <td>すぎもと こうへい 杉本 昂平</td><td>川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 助教</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>定量 MRI による病理組織像の生成</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>299,126 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>果物の定量 MRI の解析技術である NNLS (非負最小二乗法) の最適な正規化手法を明らかにした。また、病理組織像の生成は実現したが、PC のスペックの限界のため、解像度が非常に荒いものとなった。今後のヒト前立腺への応用に向け、複数の果物・果物の解析を行い、臨床応用に活用できるファントムとしてキウイが有望であることが明らかとなった。</td></tr> </table>	すぎもと こうへい 杉本 昂平	川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 助教	研究題目	定量 MRI による病理組織像の生成	助 成 額	299,126 円	成 果 等	果物の定量 MRI の解析技術である NNLS (非負最小二乗法) の最適な正規化手法を明らかにした。また、病理組織像の生成は実現したが、PC のスペックの限界のため、解像度が非常に荒いものとなった。今後のヒト前立腺への応用に向け、複数の果物・果物の解析を行い、臨床応用に活用できるファントムとしてキウイが有望であることが明らかとなった。
すぎもと こうへい 杉本 昂平	川崎医療福祉大学 医療技術学部 診療放射線技術学科 助教								
研究題目	定量 MRI による病理組織像の生成								
助 成 額	299,126 円								
成 果 等	果物の定量 MRI の解析技術である NNLS (非負最小二乗法) の最適な正規化手法を明らかにした。また、病理組織像の生成は実現したが、PC のスペックの限界のため、解像度が非常に荒いものとなった。今後のヒト前立腺への応用に向け、複数の果物・果物の解析を行い、臨床応用に活用できるファントムとしてキウイが有望であることが明らかとなった。								
⑤	<table border="1"> <tr> <td>なかみつ ゆう き 仲光 勇輝</td><td>川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>腹部 MRI 検査における撮像シーケンス間の違いが副腎静脈の描出能へ及ぼす影響に関する研究</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>右副腎静脈の同定率は OP3.5mm、OP1.0mm とともに約 25%と低く、有意差は認められなかった。RMS CNR は OP3.5mm で高い傾向を示したが統計学的有意差には至らなかった。観察者間一致度は両条件で高値を示し、再現性は良好であった。一方、右副腎静脈は下大静脈 (inferior vena cava: IVC) との近接や周囲脂肪の乏しさにより描出が困難であり、スライス厚のみの調整では描出能改善は不十分であることが示された。今後は本研究で得られた知見を基盤として、スライス厚に限らず撮像条件全体を再検討し、右副腎静脈の描出能向上を目指したプロトコル最適化を進めていく予定である。さらに、描出困難例に共通する要因についても検討を重ね、臨床における実用性を高めることで、将来的な副腎静脈サンプリングの手技支援につなげたいと考えている。</td></tr> </table>	なかみつ ゆう き 仲光 勇輝	川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師	研究題目	腹部 MRI 検査における撮像シーケンス間の違いが副腎静脈の描出能へ及ぼす影響に関する研究	助 成 額	300,000 円	成 果 等	右副腎静脈の同定率は OP3.5mm、OP1.0mm とともに約 25%と低く、有意差は認められなかった。RMS CNR は OP3.5mm で高い傾向を示したが統計学的有意差には至らなかった。観察者間一致度は両条件で高値を示し、再現性は良好であった。一方、右副腎静脈は下大静脈 (inferior vena cava: IVC) との近接や周囲脂肪の乏しさにより描出が困難であり、スライス厚のみの調整では描出能改善は不十分であることが示された。今後は本研究で得られた知見を基盤として、スライス厚に限らず撮像条件全体を再検討し、右副腎静脈の描出能向上を目指したプロトコル最適化を進めていく予定である。さらに、描出困難例に共通する要因についても検討を重ね、臨床における実用性を高めることで、将来的な副腎静脈サンプリングの手技支援につなげたいと考えている。
なかみつ ゆう き 仲光 勇輝	川崎医科大学附属病院 中央放射線部 診療放射線技師								
研究題目	腹部 MRI 検査における撮像シーケンス間の違いが副腎静脈の描出能へ及ぼす影響に関する研究								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	右副腎静脈の同定率は OP3.5mm、OP1.0mm とともに約 25%と低く、有意差は認められなかった。RMS CNR は OP3.5mm で高い傾向を示したが統計学的有意差には至らなかった。観察者間一致度は両条件で高値を示し、再現性は良好であった。一方、右副腎静脈は下大静脈 (inferior vena cava: IVC) との近接や周囲脂肪の乏しさにより描出が困難であり、スライス厚のみの調整では描出能改善は不十分であることが示された。今後は本研究で得られた知見を基盤として、スライス厚に限らず撮像条件全体を再検討し、右副腎静脈の描出能向上を目指したプロトコル最適化を進めていく予定である。さらに、描出困難例に共通する要因についても検討を重ね、臨床における実用性を高めることで、将来的な副腎静脈サンプリングの手技支援につなげたいと考えている。								
⑥	<table border="1"> <tr> <td>ひらまつ ひろあき 平松 寛明</td><td>重井医学研究所 分子遺伝部門 研究員</td></tr> <tr> <td>研究題目</td><td>アルポート症候群の病態進行にかかわる分子機構の解明と治療への応用</td></tr> <tr> <td>助 成 額</td><td>300,000 円</td></tr> <tr> <td>成 果 等</td><td>病態進行が遅く、生存期間が最も長いラット系統のみに認められる複数の遺伝子多型の同定に成功した。さらに、量的形質遺伝子座解析の結果を統合することにより、病態進行に関与する候補遺伝子の絞り込みを行った。また、いくつかの候補遺伝子の変異については、生存期間が最も短い系統のアルポート症候群モデルラットに対して in vivo ゲノム編集法を用いて導入し、治療標的としての有用性の検証を進めている。</td></tr> </table>	ひらまつ ひろあき 平松 寛明	重井医学研究所 分子遺伝部門 研究員	研究題目	アルポート症候群の病態進行にかかわる分子機構の解明と治療への応用	助 成 額	300,000 円	成 果 等	病態進行が遅く、生存期間が最も長いラット系統のみに認められる複数の遺伝子多型の同定に成功した。さらに、量的形質遺伝子座解析の結果を統合することにより、病態進行に関与する候補遺伝子の絞り込みを行った。また、いくつかの候補遺伝子の変異については、生存期間が最も短い系統のアルポート症候群モデルラットに対して in vivo ゲノム編集法を用いて導入し、治療標的としての有用性の検証を進めている。
ひらまつ ひろあき 平松 寛明	重井医学研究所 分子遺伝部門 研究員								
研究題目	アルポート症候群の病態進行にかかわる分子機構の解明と治療への応用								
助 成 額	300,000 円								
成 果 等	病態進行が遅く、生存期間が最も長いラット系統のみに認められる複数の遺伝子多型の同定に成功した。さらに、量的形質遺伝子座解析の結果を統合することにより、病態進行に関与する候補遺伝子の絞り込みを行った。また、いくつかの候補遺伝子の変異については、生存期間が最も短い系統のアルポート症候群モデルラットに対して in vivo ゲノム編集法を用いて導入し、治療標的としての有用性の検証を進めている。								

⑦	くにしお みゆき 國塩 幸	川崎医科大学 微生物学 助教
	研究題目	ヒト T 細胞白血病ウイルス 1 型の Tax 遺伝子が免疫細胞老化に及ぼす影響とその病因的意義の解明
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	HTLV-1 感染ヒト T 細胞株 12 株、非感染ヒト T 細胞株 3 株、および重金 属イオン応答性メタロチオネインプロモーターの下流に tax 遺伝子を導入したヒト T 細 胞株 JPX9 細胞を用いた。これらの細胞株における Tax および NR4A ファミリータンパク質 (NR4A1、NR4A2、NR4A3) の発現をウェスタンブロット法により解析した。さらに、JPX9 細胞に 10 μ M の塩化カドミウムを添加して Tax 発現を誘導し、その際の NR4A ファミリー タンパク質の発現変化を解析した。その結果、HTLV-1 感染 T 細胞株において Tax の発 現量と NR4A1 の発現量との間に相関が認められた。また、JPX9 細胞では Tax 発現誘導後 の早期段階において NR4A1 の発現上昇が観察された。これらの結果から、NR4A1 が Tax に よって転写制御を受ける標的遺伝子であり、HAM や ATL の治療標的となりうる可能性が示 唆された。
⑧	かわはら たつ ゆ き 河原 辰由樹	川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 形態系分野 腫瘍内科学 大学院生
	研究題目	オシメルチニブ耐性肺がんに対する ROR1 阻害薬による耐性克服
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	MTT assay ではオシメルチニブと ROR1 阻害薬を併用することで、 PC-9/0smR2 において相加的あるいは相乗的效果が認められた。さらに、Western blotting においても、ROR1 阻害薬の投与により耐性株における EGFR や ERK、AKT などのリン酸化 が抑制されており、抗腫瘍効果が期待される結果であった。in vivo 実験としてマウスに 腫瘍細胞を移植し、併用効果の評価を行った。現時点では十分なデータの集積には至って いないものの、in vitro の結果と同様に、抗腫瘍効果が期待される傾向が認められた。
⑨	まつだ よしひろ 松田 吉弘	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野 大学院生
	研究題目	老化細胞除去に着目した、肥満合併乾癬に対する SGLT2 阻害剤の治療効 果の検討
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	現時点の結果として、肥満モデルマウスでは SGLT2 阻害薬投与により 体重は減少傾向を示し、組織学的に解析を行い、乾癬の表皮肥厚や炎症反応が改善傾 向を示すことが明らかとなった。今後、老化細胞の詳細な解析や炎症性サイトカイン の発現解析を進め、SGLT2 阻害薬による乾癬様皮膚炎改善の分子機序についてさら に検証していきたい。
⑩	かわの こうへい 河野 光平	岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域（農） 助教
	研究題目	ヒトの生殖補助医療に資する高発生能卵胞の発育過程における遺伝子 発現動態の解明
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	詳細なデータ解析については現在行っているが、最終的に胚盤胞まで 発生しなかった OGCs では、細胞老化関連 (p16, p21, p53 など) の遺伝子発現の上昇が みられた。発育培養期間における細胞老化を制御することによって、体外培養系のさらな る改良につながる可能性が考えられた。

⑪	もりい まりこ 森井 真理子	岡山大学大学院 ヘルスシステム統合科学研究科 日本学術振興会特別研究員 RPD
	研究題目	小児における難治性の自己免疫性疾患に特異的な血中自己抗体バイオマーカーの同定
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	本研究により、小児自己免疫疾患に関連する自己抗体候補を複数見出すことができた。また、微量の血液から自己抗体を高感度に検出できる可能性が示された。さらに、自己抗体研究の基盤技術として、抗原タンパク質を安定に調製する方法の開発にも取り組んだ。自己抗原タンパク質は不安定で扱いが難しいことが多いが、化学修飾を用いて可溶化する技術を確立し、自己抗体解析の精度向上につながる成果を得た。これらの成果は、自己免疫疾患の早期診断や病態解明に役立つ可能性があり、将来的には新しい診断法や治療法の開発につながることを期待される。
⑫	よねだ つよし 米田 剛	川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 視能療法学科 准教授
	研究題目	乳幼児を対象にした視線計測装置による自動視力検査の有用性
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	本研究により、視線停留時間を用いた自動視力検査法は、従来の TAC と同等の精度を有する可能性が示された。健常成人での検証では、屈折矯正下および視力障害シミュレーション下のいずれにおいても両者は高い一致性を示し、視力差は 1.0 オクターブ未満で全例一致した。相関解析では有意な正の相関を認め、Bland-Altman 解析でも系統誤差はみられず、再現性も高かった。さらに、本装置は TAC よりも測定時間を有意に短縮でき、集中力の持続が困難な乳幼児に適した効率的な視力検査法であることが確認された。乳幼児を対象とした研究においても両検査法の視力値に有意差はなく、月齢の上昇に伴う視力発達の傾向を反映することができた。以上より、本装置は検者依存性を低減し、短時間で実施可能な他覚的視力検査法として臨床応用が期待される。
⑬	さとう ゆうき 佐藤 佑樹	川崎医科大学大学院 医学研究科 医科学専攻 形態系分野 機能代謝画像診断学 大学院生
	研究題目	定量的 MRI に基づく膵癌の治療効果および予後予測モデルの開発
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	血清 CA19-9 値、腫瘍径、ADC および薬物動態パラメータ (Ktrans、ve、iAUC) において、奏効群と非奏効群間の有意な差を認めた ($P < 0.05$)。腫瘍径および薬物動態パラメータ (ve) は、化学療法第 3 コース終了後の腫瘍効果に対する独立した予測因子であった。腫瘍径と薬物動態パラメータ (ve) を組み合わせた場合の診断能としての受信者動作特性 (ROC) 曲線下面積 (AUC) は 0.84 であり、感度 78.8%、特異度 79.2%であった (カットオフ値：腫瘍径 < 26 mm、ve $> 21\%$)。以上より、DCE-MRI から算出された腫瘍径と薬物動態パラメータを組み合わせることで、化学療法に対する腫瘍効果を予測できる可能性が示唆された。
⑭	ながお りさ 長尾 莉沙	川崎医科大学附属病院 看護部 看護師
	研究題目	看護補助者の心理的安全性がタスク・シフト/シェアに及ぼす影響 -地方大学病院における実態調査と課題の考察-
	助 成 額	297,277 円
	成 果 等	本研究は、地方大学病院に勤務する看護補助者の心理的安全性の実態と

関連要因、ならびに看護職と看護補助者間のタスク・シフト/シェアの現状と課題について明らかにすることを目的とした。研究方法は川崎医科大学附属病院に勤務する看護補助者 89 名と看護職 762 名を対象とした後方視的量的研究である。データ収集は無記名の Web アンケートを用いて実施し、両職種の意識を同時に捉えることを目標とした。調査項目は、エドモントソンや先行研究を参考に独自に作成した。分析は量的、質的両面から行うことで、数値的な傾向と、背景にある看護補助者のリアルな声を深く考察した。結果、看護補助者の心理的安全性は概ね高い傾向にあった。一方で看護職との意思疎通や役割期待の共有には課題が認められた。また、業務は搬送や環境整備などの周辺業務に集中しており、直接ケア業務へのタスク・シフトは限定的であった。さらに、異動経験や雇用形態は心理的側面や業務負担感に影響を与える可能性が示唆された。以上より、タスク・シフト/シェアの推進には業務拡大のみならず、役割の明確化、教育体制の整備、心理的安全性を高める環境整備が重要であることが示された。

⑮

やすだ まりこ 安田 万里子	川崎医科大学附属病院 臨床心理センター 臨床心理士
研究題目	認知症高齢者の行動・心理症状が介護負担感に及ぼす影響
助 成 額	300,000 円
成 果 等	本調査では、対象患者の約 8 割に BPSD が認められ、12 の症状のうち「無関心（意欲・関心の低下）」が最も多く認められた。また、この症状は介護負担を高め、介護者に否定的な感情を抱かせやすいこと、介護者の社会生活に支障をきたしやすいことが明らかになった。意欲の低下は、問題行動とは異なり、手がかからない症状と捉えられやすい。しかし、反応性の乏しさにより介護者が促しや介助を行う場面が増えるため、結果として介護負担を増大させる要因となる可能性が示唆された。他にも、BPSD のうち、「妄想（事実でないことを信じ込む）」、「興奮（介助への拒否）」、「多幸（理由なく陽気になる）」、「脱抑制（衝動的な行動）」および「異常行動（目的のない反復行動）」においても介護者の負担を増加させやすいことが明らかになった。BPSD 以外では、認知症の重症度、要介護度の高さ、認知機能と生活機能の低下が介護負担の大きさと関係していることが明らかになった。また、介護サービスを利用している場合にも、介護負担が高くなることが明らかになった。これらの結果から、介護量の増加や見守りの必要性の高まりが介護負担の大きさにつながる可能性が示唆された。本研究で得られた知見は、介護者支援のあり方を考える上で重要な手がかりになると考えられる。

⑯

かわぐち ゆ か 川口 由夏	川崎医科大学附属病院 眼科 視能訓練士
研究題目	コントラスト感度測定を用いた遮光眼鏡の有用性について
助 成 額	300,000 円
成 果 等	本研究では、羞明を自覚する症例を対象に、東海光学社製 STG テストレンズセットを用いて患者自身が最も見やすいと判断した遮光レンズを選定し、屈折矯正下における遮光眼鏡装用前後の視機能を比較・検討した。視力は Landolt 環で測定し、logMAR に換算して評価した。コントラスト感度は CSV-1000 を用い、複数の空間周波数で定量的に測定した。その結果、遮光眼鏡装用後に視力に変化はなかったが、コントラスト感度は中～高空間周波数領域において改善傾向を示した。適切に選定された遮光眼鏡は単に減光するだけでなく、散乱光を抑制し、網膜に結像する像のコントラストを改善することで、視機能を維持あるいは質的に向上させる可能性があると考えられた。遮光眼鏡は視力や精細なコントラスト識別能力を損なうことなく、羞明軽減に寄与しうる有用な視覚補助手段である。

⑰	もりた まさゆき 森田 将之	川崎医科大学 解剖学 講師
	研究題目	マラリア原虫の赤血球侵入関連タンパク質 LSA3 の局在解析
	助 成 額	300,000 円
	成 果 等	ジェノタイピング PCR により lsa3 遺伝子の読み取り枠の 3' 末端領域を増幅した結果、野生型に比べて遺伝子組換え原虫ではAGIAタグ塩基配列挿入分の36塩基対大きいPCR産物の増幅が検出され、遺伝子組換えを確認できた。今後、遺伝子組換え原虫の解析を進めることでLSA3の詳細な局在解析が可能となる。

2. 令和7年度 教育研究機関及び地域社会との連携・交流助成事業

定款第4条第1項第2号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目 的

この助成は、岡山県内の医学・医療福祉学教育研究機関と地域社会との連携・交流事業に対して助成し、その振興を図り、生涯学習熱の高まる県民に対して、医療・福祉知識の一層の普及を図ることを目的とする。

(2) 対 象

岡山県内の医学・医療福祉学に関する教育研究機関に所属するものが実施する次の行事を対象とする。

① 公開講座 ② セミナー ③ 講演会 ④ 研究会 ⑤ 研修会 等

(3) 選 考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(4) 申請件数、採択件数、助成額

申請のあった7件のうち3件を採択した。助成額は総額 600,000 円。

(5) 助成者一覧、成果等

(所属及び職名は申請書提出時点)

①	いなつき さとこ 稲月 聡子	岡山大学 学術研究院 社会文化科学学域（文学部） 准教授
	行 事 名	地域と学ぶ研修会「こころとからだとアート」
	期 日	令和7年8月30日（土）
	会 場	倉敷中央病院附属予防医療プラザ 古久賀ホール
	助 成 額	200,000 円
	成 果 等	午前の部では、がん領域をはじめとする身体疾患を抱える患者の心理支援について、初学者にもわかりやすく医療現場の現状と工夫を伝えた。受講者アンケートでは、「病院と一口に言っても、身体疾患と精神疾患とそれぞれ異なる心理職としての関わり方があることに考えが及んでいなかったため、特に身体疾患の方への介入について実体験も交えたお話を聞くことができ、よい知見を得ることができた」「終末期医療の現場における心理職の役割をイメージすることができた」「データや事例のお話から、改めてがんが身近であることを感じた」「がん患者へのアプローチについて具体的な学びがあったことが大変良かった」といった回答が寄せられた。今回複数の大学院から大学院生が参加しており、普段学ぶ機会のない身体領域における心理支援に関する知識普及に一定の効果があったことが推測できる。後半の午後の部では、ペアワークやグループでのシェアリングを行いながら、アートセラピーについて紹介した。受講者アンケートでは、「分析や

解釈だけでなく、患者が心を表す手段として役に立ち、心理的支援となりうることがわかった」「画材の質感も触りながら実際に感じてみることで、改めて自分は情緒的なイメージ形成して味わう力があるんだなと感じた」など、体験的理解を通した自己理解や支援の意義についての学びが深まったことが確認できた。また、心理職に就いて数年の初任者から数十年のベテラン、そして大学院生が共に学び合う機会を提供することができ、地域連携において一定の貢献ができたのではないかと考えている。

②

たぶち やすこ 田淵 泰子	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 特任講師
行 事 名	介護と共に歩む～在宅介護とキャリアの両立が当たり前の社会へ～
期 日	令和 7 年 7 月 19 日（土）
会 場	岡山県生涯学習センター
助 成 額	200,000 円
成 果 等	介護フォーラムの事前広報として、山陽放送株式会社、FM ぐらしき、山陽新聞朝刊掲載と事前に広報周知された。また、当日のフォーラム内容についても、山陽放送株式会社が翌日 7 月 20 日にニュース番組で報道した。大学は、地域住民に生涯学習の機会を提供し、地域課題解決へと貢献するために、地域連携を行う使命がある。今回のフォーラム参加者の多くは、看護師やケアマネージャー、心理士、介護福祉士等専門職や介護当事者であり、フォーラム内で多職種や当事者が少人数で語り合う場も設けた。専門職と当事者が、互いに心の声に耳を傾ける貴重な機会となった。フォーラムを契機として、点と点であった人と人が繋がり合い、支え合い、学び合う地域連携の場となったと考える。また、今回は、公益社団法人岡山県社会福祉士協会や岡山県精神保健福祉士協会から後援のご支援を頂き、マスメディア各社に報道して頂いた。本学の教育や経験知を知らしめる一助となったとも考える。また、この介護フォーラム開催時に、介護当事者が語り合い、支え合い、学び合う場の開催を呼びかけ、翌月 8 月から、毎月第一土曜日に「介護ダイアログ@OKAYAMA」を定例開催している。介護フォーラム参加メンバーを中心として県内外（大阪、広島）から 15 人が参加している。この 3 月で 8 度目の開催となるが、在宅介護を継続する上で必要な情報交換や介護当事者の心身のストレスマネジメントについての情報共有、自身の悩みや葛藤等を吐露し合う場として、参加者にとって欠くことのできない心の支えの場となっている。今後も介護当事者の支え合いの場として継続し、介護ダイアログ開始 1 周年を目途に、介護当事者にとって、介護の羅針盤となる冊子作製を企画しているところである。これからも介護フォーラムで得られた「知」と「人脈」を活かしながら、増加の一途を辿る介護離職者への対策等社会的課題の解決に向けて、介護高齢者や介護当事者が生き辛さを軽減できる社会構築へのソーシャルアクションを継続したい。

③

しばた たかし 柴田 敬	岡山大学病院 小児神経科 講師
行 事 名	第 10 回ビギナーズのための小児神経ハンズオンセミナー in 岡山
期 日	令和 7 年 7 月 12 日（土）・13 日（日）
会 場	岡山大学鹿田キャンパス 基礎医学講義実習棟 2F 実習室
助 成 額	200,000 円
成 果 等	この度は助成を賜り誠にありがとうございました。おかげさまで、令和 7 年 7 月 12 日（土）から 13 日（日）の二日間にわたり予定通りセミナーを開催することができました。当初定員は 70 人の予定でしたが、募集開始から想定を上回る反響があり、最終的に 78 名の方にご参加いただきました。セミナーの 1 日目は「小児デジタル脳波」について、2 日目に「心理検査」と「マイクロアレイ染色体検査」についてハンズオン形式

で講義を行いました。参加者はみな思った以上に熱心に取り組んでおり、講義を進めるこちらとしても非常に教えがいを感じる時間となりました。参加後に行ったアンケートでも多くの参加者が大変有意義であったと回答してくださっており、今回のセミナーが現場での実践につながる貴重な学びの場として機能したことを実感しております。1日目の夜には希望者を対象に懇親会を催しました。今回の参加者は、東は福島県、西は鹿児島県まで全国各地からお越しいただきました。料理やクイズ大会などの余興を通じて、岡山の魅力にも触れていただけたのではないかと感じています。今回の講義内容は日々の診療現場に直結するものであり、参加者それぞれの臨床力の向上により、今後の医療の質の向上につながる効果が期待されます。また、全国各地からここ岡山の地に足を運んでいただいたことで、地域を超えた交流が生まれたことも本セミナーの大きな効果の1つと考えます。こうした繋がりを通じて、岡山における小児医療がさらに発展していくことを願っております。

3. 令和7年度 国際教育・研究交流助成事業

定款第4条第1項第3号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) 目的

この助成は、医学・医療福祉学にかかわる岡山県内の研究者を研修のため海外へ派遣したり、外国から県内の大学へ招請する事業に対して旅費、滞在費等の一部を助成することにより、教育・研究の向上に資することを目的とする。

(2) 派遣・招請の対象

- ① 外国の研究であること
- ② 教育研究に優れた実績のある外国の大学・研究所での研修であること。
- ③ 医学・医療福祉学に関する研究であって、研究レベルを向上させるもの。

(3) 派遣・招請の資格

- ① 優れた教育研究活動の資質があること。
- ② 国際活動に必要な語学力を有すること。
- ③ 研究活動への参加により、教育活動の向上が期待されること。

(4) 選考

選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定した。

(5) 申請件数、採択件数、助成額

＜派遣＞ 申請なし

＜招請＞ 申請なし

4. その他目的を達成するために必要な事業

定款第4条第1項第4号に掲げる事業は次のとおりである。

(1) P R 事業（ホームページの随時更新）

ホームページを通じて、本法人の概要やコンセプトをはじめ、必要に応じて時宜を得た情報を発信し、本来の趣旨や目的の実現を図るため、また、助成公募や寄附金募集の事業を積極的に推進するために内容の更新を積極的に行った。これまで195名の受賞者の「受賞者寄稿文」を掲載するなど、一層の充実がなされた。

(2) 募金事業

本法人の財源に充てるべく、また、当法人の事業の周知という観点から、令和7年度においても募金事業を行った。学園内の教員や岡山県病院協会関係の病院、業者等に要請を行った結果、年度末までには4,755,000円の浄財が寄せられた。

5. ガバナンス体制の充実を図るための取組

(1) 外部役員による客観的視点での意思決定

単なる「人数の充足」ではなく、本法人の経営判断の妥当性を確保するため、医療・教育の専門家のみならず、専門的知見を有する外部理事および外部監事を置き、理事会における審議の活性化と、透明性の高い意思決定プロセスを構築している。

(2) 社会に対する情報公開と対話の促進

地域や業界など広く一般に対する説明責任を果たすため、評議員に外部有識者を置き、経営状況や事業計画を報告し、広範な意見を運営に反映させる体制を整えている。また、財務状況等の情報をホームページにて公開し、社会に対する高い透明性の維持を継続している。